

第643回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年5月度 ——

◇ 開催日

2022年5月16日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「アサデス。7」の新企画「長野博の食のチカラ」

放送日時：4/6(水) 4/13(水) 4/20(水)放送分

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第643回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年5月16日(月)午後3時30分～4時40分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	赤木由美
副委員長	石橋和幸
委員	中山裕二(オンライン参加)
委員	石井靖子
委員	丸石伸一
委員	田川真司(オンライン参加)
委員	上野恵梨奈

欠席委員数 1名(レポート提出)

委員	藤村まこと
----	-------

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣靖
執行役員	岩村智
報道情報局長	柴田高宏
総合編成局長	大保一
報道情報局 報道情報センター長	西村香織
全社タスクフォース「アサデス。」GP	野村友弘
報道情報局「アサデス。7」プロデューサー	尾林江津子
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	園田哲也
番組審議会事務局(視聴者・広報室)	松永俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 「アサデス。7」の新企画「長野博の食のチカラ」
放送日時：4/6(水) 4/13(水) 4/20(水)放送分
- (2) 5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 4月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 九州の食のポテンシャルの高さに改めて気づくことができた。様々な知識も得られて、楽しくて、ためになる企画だった。各放送回の題材はバラエティーに富んでおり、長野博さんの食に対する知識レベルの高さには感心した。包丁さばきもお見事だった。
- 食通で知られる長野さんをキャスティングしたことがかなりプラスに働いていた。単なる食レポや産地訪問に止まらず、長野さんの知識に裏打ちされたコメントや視聴者が感心できる発見もあり、それらが番組にとっても良いエッセンスを加えていた。
- 長野さんは長く農作業や料理を続けている方だけに、食材の特徴や栽培方法にいたるまで知識が豊富で、その突っ込みどころが番組のアクセントになっていた。専門家に近い目線が生産者とのやり取りを通じて作り手のこだわりや思いを引き出していた。
- 長野さんが実際に九州に来て生産地を訪れ、食して、生産者と触れ合い、レポートをするというスタイルは「地域密着」を謳うKBCらしい企画だと感じた。難しい知識を語っても好感度が高い長野さんに九州を応援してもらっているという気分になれた。
- 長野さんの飾らない人柄とそれでいて博識な部分とのバランスが良く、加えて明るく元氣な西本美恵子さんとのコンビネーションも非常に良いと思った。テンポも良かった。
- 3回分の放送は、毎回興味を引く題材ばかりで、視聴者を飽きさせない工夫がされていた。次はどんな食材なのかと期待をもたせる内容だった。
- 「食」をテーマにしているだけに、ジャンルが限定されてしまう気がするが、あまりなじみのない食材を取り上げたり、登場人物も多様で、よくこんなにもバラエティーに富んだ取材先やネタを発掘してきたなと感心した。
- 以前の番組審議会で「アサデス。7」がテーマになった際、出演者がのびのびと楽しめる環境を大切にして、視聴者の親しみやすさにつなげているとの説明を聞いたが、今回の取材を受けた人たちは皆さんが自分の言葉で明るく話しており、番組の目指す「親しみやすさ」が十分に演出できていると感じた。
- コロナ禍で飲食店の需要が低下し、消費量が激減するなど生産者は厳しい状況。「アサデス。7」は九州・山口7局の共同制作なので、今後は各地の食材や人物が紹介され、打撃を受けた生産者を盛り上げる企画になることを期待している。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 食や食材の魅力を伝える番組の流れはだいたい似たようなものが多く、本作も構成自体にさほど斬新さはないと感じた。
- 長野さんの話が脱線した場面で「その話は（収録が）終わった後にしてくださいね」と注意される場面は、むしろ長野さんの話に興味を抱き始めていたために残念だった。
- 食材の価格は視聴者にとって重要な情報の一つ。特になじみのない食材については興味を持つ人も多いのではないか。紹介する際は必ず値段も伝えるように検討して欲しい。
- 画面のQRコードを読み込むと、番組ホームページのトップ画面が表示され、レシピを確認するのに手間取った。すぐに確認したいというニーズのために、アクセシビリティを良くしてはどうか。レシピだけを集めたインスタがあっても良いと思った。
- サイドスーパーが最初から最後まで同じで画面と内容が合っておらず、何を伝えたいのか分かりにくかった。
- イオンと企画の関係性に疑問が残った。イオンがスポンサーなら、紹介される情報やニュースの選択基準にどのように影響するのか気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- コーナー立ち上げにあたり、柱となるタレントさんの人選に力を入れた。「食」をテーマに地域を盛り上げるべく、食通で知られる長野さんの専門性に期待しているし、テレビ離れが進む中で何とかもう一度テレビを見てもらうきっかけになればと思っている。
- 全国的に人気の長野さんからご出演の承諾を得たのは去年末。1月末から撮影を始め、急ピッチで4月のスタートに備えた。季節感などで違和感を与えたかもしれないが、今後はロケから放送の期間が狭まる予定。より旬な話題を提供できるようになると考えている。
- 長野さんは九州・山口エリアの「食」に対しても高い関心をお持ちなので、一つひとつの食材を丁寧に取り上げながら、九州・山口をより盛り上げていきたいと考えている。
- バリエーションに富んだ話題を提供できているのは現場のディレクターたちの努力のたまもの。別の取材で訪ねた取材対象者との信頼関係を構築できているからこそ、豊富な情報をキャッチすることにもつながっている。
- 長野さんの話が脱線した場面も今後は有効活用できるよう番組づくりに生かしたい。
- 「値段も情報の一つ」というご指摘はその通りで改善に努める。
- 番組で紹介したレシピを集めたインスタの展開は早速前向きに検討したい。
- サイドテロップは視聴者が一目で内容を理解できるようインパクトのある言葉を表示しているが、よりきめ細かく場面に応じたテロップを表示することの重要性を再認識した。
- イオンはコーナースポンサーだが、コーナー内で取り上げる内容は「情報」として、視聴者に有益なものをお届けするよう心掛けている。

などの説明をしました。